

私のしくじり体験



住まいに関してしくじり、苦勞してきた私。いや・・・もっとも苦勞をしてきたのは家事全般を担ってきた妻だったかも知れない。その次が幼かった二人の子供たち・・・

今から30年ぐらいい前、結婚後すぐ大阪市宮住宅でコンクリート造11階建ての最上階に住んでいた。最上階だった為、夏は太陽の照り返しによるサウナ化した室内、冬は窓の結露、そして高層階にも慣れず、わずか2年で転居を考え始める。当時はバブル全盛期。若い二人が買える家は限られている。なんとか買える家はよく言えば下町の風情が残る築30年経った連棟の小さな小さな住宅。洗濯機は2階のバルコニーにあり冬の寒さに凍えた身重だった妻に急な階段は負担だったに違いない。それも2年ほど住んで転居を考え始める。バブル崩壊後、もう底だろうと思いつ購入した2回目の住まいも高い買い物だった。21坪の土地に築23年の木造2階建て角地が気に入り、住宅ローンを利用し購入するが頭金と諸費用で預貯金は底をつく。将来は建て替えを予定していたので、メンテナンスは殆どせず、ガス湯沸かし器も壊れたまま、17年使い続ける。この時期、妻は冬の炊事が辛かったと言っている。又、この家は2階バルコニーの洗濯物干し場に屋根が無く、天気に左右される為、妻は大きなストレスになっていたらしい。当時から住まいの勉強を続け、今から15年前出会ったのが北海道基準の「FPの家」だった。家の性能が叫ばれる10年以上前の事だ。依頼される方にお勧めする為にも、自分自身が住み、体感しなくてはと建て替えを決意した。残債の残る住宅ローンを無視し無謀にも、事務所兼住宅を10年前に完成させ、やっと心の底から快適と思える暮らしを手に入れることができた。

住まいと健康は密接に関係する事を家族共々実感し、たとえ依頼されなくても一人でも多くの方に知ってもらおうと、住まいの性能を説明してきた。健康にも家計にも、環境にも、そして未来の子供達のためにも未来永劫住まい継がれる住宅を、何回も買い替える事無く、しっかりと勉強して手に入れて欲しいし、住まいで享受出来る多くのメリットを理解し、判断を間違わない様に切に願っています。詳しく知りたい、話が聞きたい、興味がある方は見学会でお会いしましょう。